

うつのみや人づくりビジョン策定懇談会（第5回）会議録

日時 平成16年9月28日（火） 午前10時03分～午前11時55分

場所 市役所 教育委員室

出席者

〔委員〕太田周，青柳宏，小林順子，若林治美，安久都和夫，遠藤敏幸，
船津祥，佐々木英明，渡辺映子，赤羽根肇，栗坪容子，石井智子，
加藤英典

（欠席 中村正之，每澤典子，藤沼千春，高橋克知，麦倉仁巳）

〔事務局〕教育次長，教育次長（学校担当），総務担当主幹，教育企画課長，
学校教育課長，学校管理課長，生涯学習課長，スポーツ振興課長，
教育センター所長，ほか5名

公開・非公開の別 公開

傍聴者 0名

会議経過

- 1 開会
- 2 報告事項
 - (1) 第4回会議録の確認について
- 3 協議事項
 - (1) 基本理念に掲げる内容と5つの力を身につけるための方策について
 - (2) 各ライフステージの人づくりにおける家庭，地域，行政，企業の役割と連携の在り方について
 - (3) 次回会議日程について
- 4 その他
- 5 閉会

会議の結果

- 1 報告事項
 - (1) 会議録について
報告資料1「第4回会議録」をもとに，事務局より説明し了承を得た。
- 2 協議事項
 - (1) 基本理念に掲げる内容と5つの力を身につけるための方策について
協議資料1をもとに，事務局より説明。その後，意見交換を行った。

(2) 各ライフステージの人づくりにおける家庭，地域，行政，企業の役割と連携の在り方について

協議資料 2 をもとに，事務局より説明。その後，意見交換を行った。

(3) 次回会議日程について

第 6 回懇談会の開催日時について協議し，10月29日（金）午後 1 時 30 分から開催することとした。

3 その他

(1) 作業部会委員を，青柳委員，中村委員，小林委員，毎澤委員としたことを報告し，了承を得る。

発言の要旨

1 基本理念に掲げる内容と 5 つの力を身につけるための方策について

青柳委員 : 作業部会の検討の中で，「学ぶ力，創造する力」又は，「広い心，共生の精神」の基本目標に，真理を探究する性質という意味で「理性」を位置づけてはどうかという意見もあった。抽象的なものであり，今回の資料には記載されていないが，提言の中ではこうした検討をした経過もあった。

船津委員 : 支援の中で，企業の役割を位置づけることは重要であると思う。子どもが育つのに重要な時期に，単身赴任などで父親が不在となっている家庭もある。

渡辺委員 : 単身赴任だけでなく，残業や休日出勤などで子どもに関わる時間が不足している現状もある。企業についてはもう少し責務を明確に表現をしても良いのではないか。

佐々木副主幹 : 企業に対しては，現在，100名以上の事業所を対象にアンケート調査を行なっている。今後，調査結果をもとに意見交換会などを行ないながら，企業の役割や責務を明確にしていきたい。

栗坪委員 : 中学生くらいの年代になると家庭以外の社会に目を向けるようになり，行動範囲も広がる。このような時期に，家庭における父親や地域の役割は重要だと思う。

青柳委員 : これからの社会に必要な能力や問題解決のための視点も重要である。しかし，それだけではなく，創造力を育むための自然体験や自分を表現していく芸術活動など子ども達が求めている夢のある部分を取り入れていくことが必要ではないか。

渡辺委員 : 自己管理能力(金銭)の中で、お金は働くことにより得られるものだという意義を表現してみてもどうか。

若林委員 : 乳幼児期の目標に「パソコン等と仲良しになる」とある。この時期に「本と仲良しになる」ことも必要であると思う。また、青年期に「国際的通用する語学力を身につける」とあるが、正しい日本語を身につけることも大切にしてほしい。

太田委員長 : 幼児期に本に触れることは、重要であると思う。読み聞かせなどで子どもの頃に吸収したことは、大人になっても大きな力になる。

石井委員 : 本は心に残っていくものだと思う。幼児期から、読み聞かせなどを行い本に触れる環境作りを行なうために目標に位置づけるべきではないかと思う。

小林委員 : 人づくりの基礎となる乳幼児期に、パソコンなど情報機器にふれることについて、子育てを通じて感じた意見を教えて欲しい。

石井委員 : 自分自身の子育ての経験では、テレビ等を見たあとは、子どもがイライラしているように感じた。そのため、時間を制限するなどしていた。また、パソコン等に触れだすと時間がかかるので、本来必要な親子のスキンシップや自然体験などの時間が少なくなってしまうのではないかという懸念もある。基本的には親が選択するものだと思う。

また、就学前にお小遣いを貰っている子どもは少ないと思うので、乳幼児期に金銭に関する目標を設定することは早いのではないか。

太田委員長 : 情報を得るためにパソコンは、社会の仕組みの中で必要不可欠なものとなっていると感じる。特に、高齢期においては、自宅にしながら情報を得られるインターネットなどは非常に有効なものであり、パソコンを利用できるようになれば活動の場が広がる。また、日常的に仕事などで使用しており、無制限の情報の中での選択や倫理などの問題が出てくる。そのような時代の流れの中で、早い時期からパソコン等に触れ、情報倫理等を身につけることも必要であるという意見が多いのではないかと思う。

栗坪委員 : 現在の状況の中で、どのような人づくりを行なうのかを考えるとパソコンなどを避けることはできないのではないか。

船津委員 : 幼児期から、パソコンに触れれば興味も湧いてくると思う。無理に教え込むのではなく、興味を持って自ら取り組むのであれば、問題はないのではないか。

- 遠藤委員 : 会社の業務など、パソコンが利用できないと社会からもはじき出されてしまう状況になりつつある。そのため、早い時期にパソコンがどういうものを理解するためには、幼児期からパソコンに触れることは必要だと思う。
- 小林委員 : 社会の状況の変化により、パソコンも必要である。しかし、それだからこそ、今まで当たり前だった自然体験や読み聞かせなど、自然や人とのコミュニケーションや想像力を大切にした遊びを大切にしないで、ゆがみが生じるように感じる。そういったものを強調して表現すれば、バランスがとれるのではないか。
- 遠藤委員 : 先ほど、語学力について指摘があったが、ここで身に付けるのは、英語を前提とするのか。これからは、アジア圏の語学力も必要ではないか。
- 栗坪委員 : 世界共通語としては、英語が重要であると思う。長野オリンピックでボランティアをしたが、様々な国の人々が集まり英語でコミュニケーションを行っていた。
- 石井委員 : ドイツに住んでいたことがあるが、つたなくてもその国の言葉で話しコミュニケーションをとろうとすることが、その国を理解する第一歩だと思う。語学は、恥ずかしがらずに、その国の言葉で話すことが大切であると思う。
- 太田委員長 : 確かに、ここでの語学力とは、語学のスペシャリストを育成するのではなく、ヘジティションを持たずにその国の言葉で、外国の方とコミュニケーションをし、その国を理解するということなので、英語を前提にしなくてもよいと思う。
- 栗坪委員 : 自己管理能力（金銭）は、成人期以降も必要であると思う。特に高齢期になると、社会保障のシステムが十分でないためか、お金を使うことに不安を感じているようである。
- 青柳委員 : 乳幼児期において、遊びは重要な要素である。意思力、忍耐力、粘り強さを身につけるための目標として、「遊び」を通じてという表現を付け加えて欲しい。
- 船津委員 : 人づくりをする中で、正直さを身につけることも大切だと思う。理念として、盛り込むことも必要ではないかと思う。

2 各ライフステージの人づくりにおける家庭，地域，行政，企業の役割と連携の在り方について

- 青柳委員 : 子育て支援の主体は，あくまで親であると思う。人と人とのエンパワーメントを活用し，親や地域が子育てを主体的に行い，そういった取り組みを支援し，コーディネートすることが行政の役割であると思う。
- 渡辺委員 : 人生の最終ステージである高齢期においては，いままでの出来事を受け入れ，やすらかに過ごせることも大切であると感じている。
- 小林委員 : 問題が出ないようにするための「人づくり」ではあるが，非行や虐待などが深刻な現状を踏まえ，これらの病理に対する支援も加えてはどうか。
- 佐々木副主幹 : 人づくりビジョンを受けて，具体的な事業や対応については個別計画を策定するが，支援の内容にも反映させていきたいと考えている。